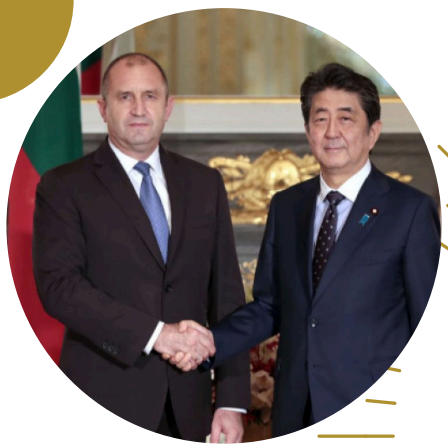
外務省外交史料館　駐日ブルガリア大使館
共催特別展示



# 日本とブルガリア
# 交流の歴史

**Japan and Bulgaria : A Journey of Friendship and Exchange**

## 2025.3.6（木）-3.29（土）

外務省外交史料館展示室
Diplomatic Archives Exhibition Room
Ministry of Foreign Affairs of Japan

後援:ブルガリア共和国外務省・日本ブルガリア協会

東京都港区麻布台1-3-1　麻布台ヒルズ森JPタワー5階
開館時間：　日・祝日を除く　10:00～17:30
Azabudai Hills Mori JP Tower 5F, 1-3-1, Azabudai, Minato-ku, Tokyo

入場無料 admission free

Information 詳細はこちら

外交史料館・駐日ブルガリア大使館
共催特別展示

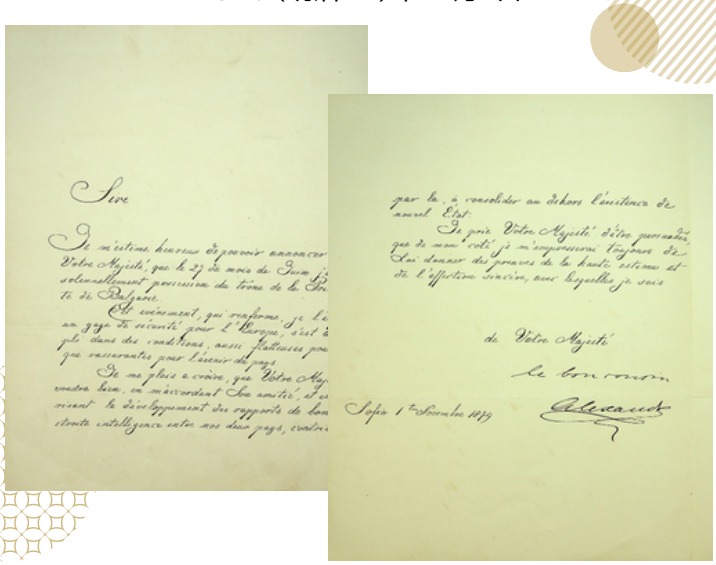
# 日本とブルガリア
## 交流の歴史

**Japan and Bulgaria:**
**A Journey of Friendship and Exchange**

日本とブルガリアの友好関係は長い歴史に裏打ちされたものであり、2024年（令和6）年には、日・ブルガリア交流開始115周年、外交関係樹立85周年、外交関係再開65周年という「3つの周年」を迎えました。また、両国の深い繋がりを描く『ブルガリア・日本交流史』がこの記念の年に日本語に翻訳、出版されました。
今回の特別展では、外務省が所蔵する史料とともに、ブルガリア政府が作成した両国の交流の歩みを象徴する数多くのパネルを展示します。この展示が日本とブルガリアの更なる相互理解を促進し、友好関係がより深まる機会となれば幸いです。

## ブルガリア公アレクサンダル1世から明治天皇宛親書

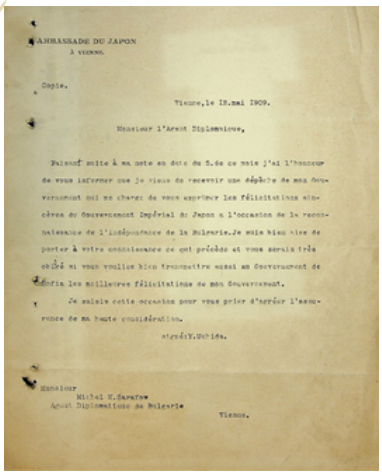
1879（明治12）年11月1日



露土戦争の結果、1878年、オスマン帝国の宗主権下で広範な自治権を有する自治公国としてブルガリア公国が成立しました。この親書は、ブルガリア公に即位したアレクサンダル1世（Alexander Joseph von Battenberg）が、自らの即位を明治天皇へ通報したもので、日本とブルガリア公国との公式な接触を示す最も古い文書です。

## ブルガリア独立に対する日本政府の祝意（左）ブルガリア政府の返書（右）

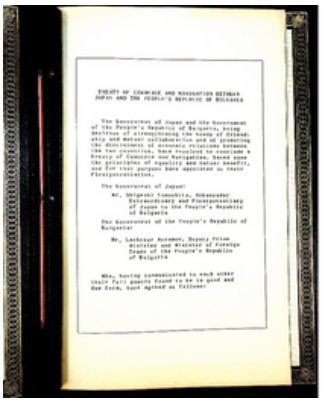
1909（明治42）年5月12日、同19日



1908年10月、ブルガリア公国はオスマン帝国からの完全独立を宣言し、ブルガリア王国が成立しました。ブルガリアの独立が列強に承認されると、1909年5月、日本政府は駐オーストリア＝ハンガリー大使の内田康哉を通じて、ブルガリアに対し独立への祝意を伝えました。これを受けてブルガリア政府は、謝意とともに日本との友好関係維持を希望する旨を返答しました。この年には久邇宮邦彦王のブルガリア訪問もあり、2019年に両国は、1909年を公式関係の開始年とすることで合意しました。

## 日本国とブルガリア人民共和国との間の通商航海条約

1970（昭和45）年2月28日署名



両国の友好関係・相互協力の強化と、経済関係発展の促進を目的として、出入国・居住・滞在をはじめとする通商航海の原則を相互に定めた条約です。駐オーストリア特命全権大使の山下重明と副総理兼外国貿易大臣のラチェザル・アブラモフ（Lachezar Avramov）がソフィアで署名。英語で作成され、全12条からなります。1970年8月5日発効。

## ジフコフ首相の訪日（大阪万博記念アルバムより）

1970（昭和45）年5月

ブルガリアは大阪で開催された1970年の万国博覧会に、ガラスとアルミニュームで造られた3つのピラミッドの形（バルカン山脈の高い峰を象徴する）をしたパビリオンで参加しました。会期中の5月18日から25日には、ブルガリア首相のトドル・ジフコフ（Todor Zhivkov）が来日して、万博会場を視察し、佐藤栄作首相との首脳会談も実現しました。これは社会主義国の首相としては初めての訪日でした。

# 写真パネルより

## ブルガリア人と日本人の間の最初の接触

ブルガリア人と日本人の間の最初の接触や関係に関する記録は、19世紀後半に遡ります。露土戦争(1877-1878)に日本が大日本帝国陸軍中佐の山澤静吾を観戦武官としてロシア軍に派遣したことから明らかです。武士の末裔である山澤静吾は、自らの任務を観戦にとどめることなく戦闘にも加わり、ブルガリアの自由のために戦いました。

## 公式関係開始　1909年

1909年に久邇宮邦彦王が日本からの公式使節として初めてブルガリアを訪問しました。1908年に宣言されたブルガリアの独立に対して1909年5月、日本が祝意を伝えました。この二つの出来事が、両国の公式な交流の始まりとされています。

## 外交関係の樹立　1939年

ПЪРВИЯТЪ ЯПОНСКИ ПРЕДСТАВИТЕЛЬ ВЪ СОФИЯ
вчера връчи акредитивнитѣ си писма

1939年に日本がソフィアに初めての日本の外交代表として蜂谷輝雄全権公使を任命し、ブルガリア政府がそれを同年10月2日に承認したことが両国間での外交関係の樹立とされます。ブルガリアは1942年に東京で公使館を開設し、初代の全権公使にヤンコ・ペエフが就任しました。

## 国交回復　1959年

第二次世界大戦末期に一時的に断絶された外交関係は1959年に回復されました。

## 万国博覧会EXPO’70<br>ブルガリアと日本の関係における画期的な出来事

ブルガリアは大規模で印象的なパビリオンで、EXPO’70 に参加しました。大阪万博への参加をきっかけにブルガリアのヨーグルトが日本に普及したと言われています。

## 明仁皇太子と美智子皇太子妃の<br>ブルガリア公式訪問　1979年

両殿下のブルガリア公式訪問(1979年10月10日～13日)により、両国の関係は1970年代後半に最高潮を迎えました。これらの最高レベルでの訪問は、友好関係を強化し、協力と交流の包括的な発展に弾みを与えることになりました。

## 1970～80年代の経済交流

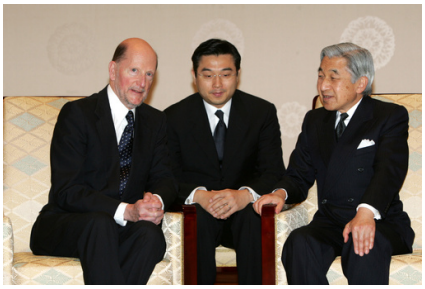
1960年代から1980年代末にかけてのブルガリアと日本の関係では、相互の経済的利益が中心に据えられており、これらと並行してさまざまな形の産業協力や科学技術協力も発展しました。1970年代半ばには、三菱商事、三井物産、住友商事、伊藤忠商事、富士通、東京丸一商事、日武バルイースト、丸紅、日商岩井、東洋綿花の10社がブルガリアに事務所を開設し、日本貿易振興会（JETRO)も1977年にソフィアに事務所を設置しました。

## 1990～2000年代共通の価値観と伝統的友好関係に基づく新たな協力とパートナーシップ

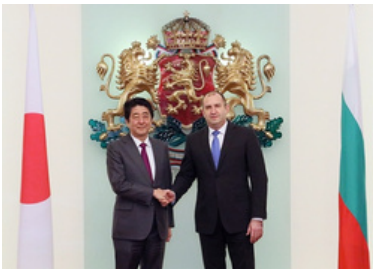
1989年に、ブルガリアが民主主義と市場経済の道を歩み始めた後、ブルガリアと日本の関係は数十年にわたって築き上げられた二国間関係、伝統、相互尊重、信頼を基礎としながらも、新たな発展の段階に入りました。

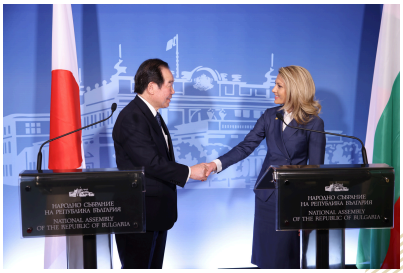
明仁天皇の即位の儀出席のために来日したジェリュ・ジェレフ大統領
海部俊樹首相と会談（1990年11月）

サクスコブルクゴツキ首相の公式訪問
（2004年12月13～17日）
明仁天皇に謁見



## 今日のブルガリアと日本　新しい次元のパートナーシップ





2018年は、ブルガリアと日本関係において画期的な年となりました。1月14日から15日にかけて、安倍晋三首相がブルガリアを公式訪問しました。日本の首相のブルガリア初訪問は、両国関係では歴史的な出来事でした。両国にとって三つの周年（公式関係開始115年、外交関係樹立85年、外交関係再開65年）の2024年に額賀福志郎衆議院議長がブルガリアを訪問し、ヴラディミル・マリノフ エネルギー大臣とエフティム・ミロシェフ観光大臣が訪日しました。

## 経済関係の活発化

SEGAゲームズのソフィアスタジオを訪問した河野太郎外務大臣

近年ブルガリアと日本との経済関係が活発化しています。特にITとイノベーション、自動車産業分野における協力が注目されています。セガサミーホールディングス、NTTデータ、ニデックがブルガリアに進出し、ITとAIの研究を進めるブルガリアのINSAITとGATE研究所はRIKEN、筑波大学、TOYOTAと連携しています。2023年5月に西村康稔経済産業大臣がブルガリアを訪問し、同年12月にボグダン・ボグダノフ経済産業大臣が訪日しました。

明治ブルガリアヨーグルト発売50周年記念式典に出席した
ボグダン・ボグダノフ大臣

## 文化的交流の象徴

日本でブルガリアを象徴するブルガリア人カロヤン・マフリャノフ（元大関琴欧洲）は、2008年5月場所でヨーロッパ出身力士として史上初めての優勝を決めました。2017年に鳴門部屋を開き、欧州出身初の師匠ともなりました。

ブルガリアで開催される「日本文化月間」は2024年に35周年を迎えました。

2023年より毎年東京で開催されるブルガリアフェスティバル「マルテニツァ」
マリエタ・アラバジエヴァ大使とダンスグループKOGA

### 書籍紹介

ブルガリア・日本交流史
バルカンのバラと
サクラの巡り会い

著者　ヴェラ・ヴトヴァーステファノヴァ
　　エフゲニー・カンディラロフ
出版　彩流社